

# ひ がた 干潟の生き物

干潟には泥や砂しかないように見えますが、  
実はたくさんの生物が生活しているのです

ひ がた かんちよう へいたん  
干潟とは、干潮時には陸地になる、平坦な砂泥地のことをいいます。一見したところは砂や泥が広がっているだけのように見えますが、泥には有機物がたくさん含まれているため、これを利用する多くの生物の生活の場所になっています。

泥の中にはゴカイや貝類がすんでいます。ゴカイの仲間は泥の表面についた有機物を、貝の仲間は泥から水に溶けだした有機物を食べています。また、チゴガニなどのカニ類は、泥をすくって、中の有機物をこしとって食べています。

このようにカニやゴカイ類がたくさんすんでいると、それを餌にするやや大型の生き物が集まります。そのような生き物としては、シギ・チドリなどの鳥類やトビハゼなどが挙げられます。これらの捕食者は、潮が満ちている間は別の場所にいたり、巣穴に隠れたりしていて、見ることはできません。しかし、潮が引くと泥の上にやってきて、餌となる生き物を探します。

## 干潟の変化



潮が満ちている状態の干潟(左)と、引いている状態(右)

## 干潟で見られる生物

### 有機物を食べる生き物



イトゴカイ科の一種



チゴガニ



アサリ

### カニやゴカイなどを食べる生き物



トビハゼ

トビハゼの仲間は皮膚で呼吸するのが得意なため、陸上でも行動できる。



オオソリハシシギ



メダイチドリ